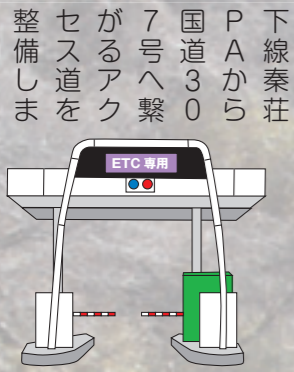
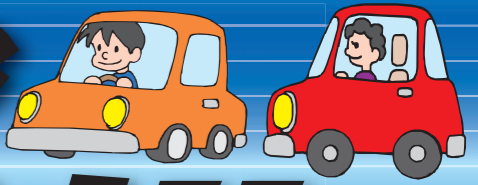
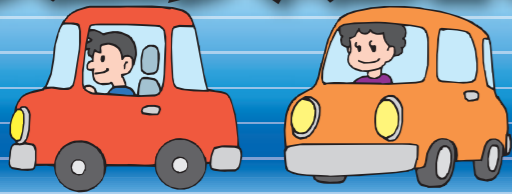


# (仮称)湖東三山スマート (ETC専用)

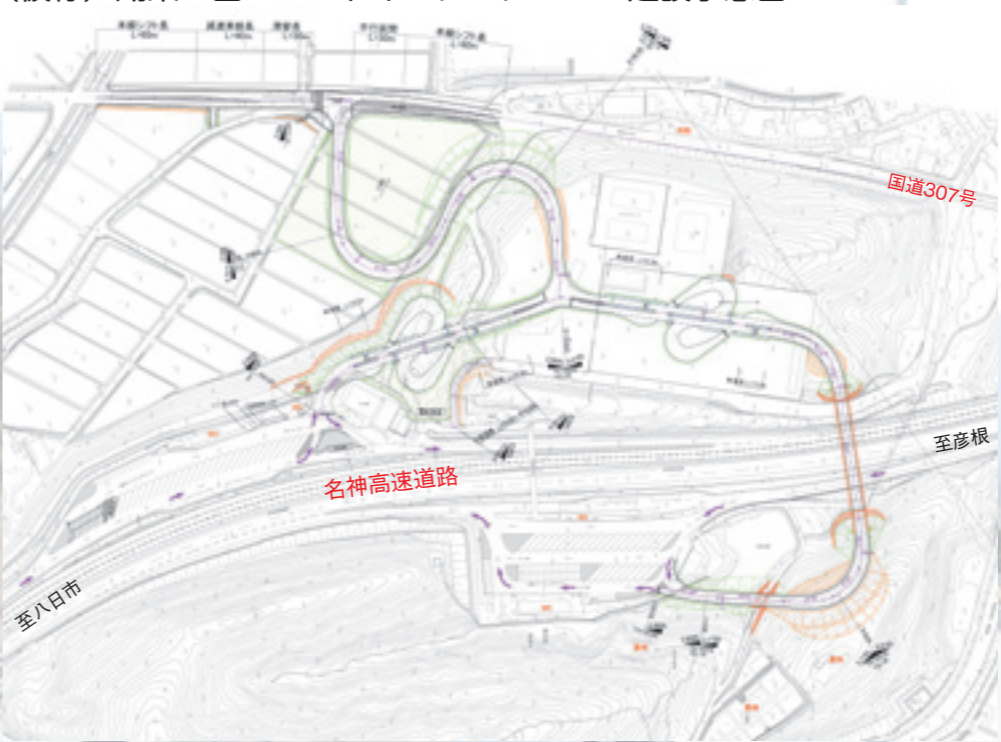
# インターチェンジ いよいよ着手します!!



整備し  
セ入道  
るアク  
7号へ  
国道3  
PAから  
下線秦  
として  
後、県  
省から  
19億  
構が1  
速(株)  
4.9  
今後滋  
省から  
後、県  
として  
下線秦  
PAから  
国道3  
7号へ  
がるア  
セ入道  
整備し

全車種・24時間通行可能なスマートICに  
計画では、国道307号と名神高速道路秦庄PAとの標高差は約18mあるため、国道307号の「上蚊野」信号北約400m地先から、S字カーブにより国民宿舎金剛輪寺荘跡地まで取り付けます。そこから南北に分岐し名神の上下線それぞれ秦庄PAに連結し、下り線は橋により名神を横断します。  
また、ETC車載器搭載車両に限り、セミトレーラーまでの全車種で24時間の通行が可能で、総事業費は概算約19億円、内負担割合として機構が11.4億円、中日本高速(株)が2.9億円、滋賀県が4.9億円としています。  
今後滋賀県では、国土交通省からの連結許可を受けた後、県道湖東三山インター線として順次名神高速道路の上線秦庄PAから国道307号へ繋がるアクセス道を整備します。

(仮称)湖東三山スマートインターチェンジ建設予想図



名神高速道路内でインターチェンジ(IC)の間隔が2.1kmと一番長い彦根〜八日市IC間において、ほぼ中間点に当たる秦庄PA付近へのインターチェンジの新設は、行政や地域の皆さんの長年の悲願でした。  
この度、国土交通省において新しくスマートIC高速道路利便増進事業制度実施要綱が発表され、この制度によりいよいよ今年度から、秦庄PAに接続するETC専用のスマートICの整備に着手できることとなりました。



国道307号には建設予定地の看板が設置されています。

今やETC車載器は、高速道路利用車両の5台に4台以上が搭載し、加えて本年3月末からの国の二次補正による「ETCで地方高速ごまで走っても1日10000円」キャンペーンや財団によるETC助成により、今後はさらに普及するものと想定されます。そうしたことから、スマートICの早期開設に向け、県において今年度から計画にかかる測量や詳細設計に着手するとともに、用地買収手続きを行い、平成25年度中には上下線開通を目指します。



スマートIC効果でより一層の地域発展を  
町では、スマートICは本町をはじめ湖東地域の高速道路利用者の交通利便性の向上や産業の活性化・企業誘致の促進、アクセス向上による観光振興に期待しています。またゲリラ雪や事故等災害時の道路網の強化や生命に関わる重篤患者の30分以内搬送などの救急・医療活動の強化についても大きな成果が上がるものと期待しています。このプロジェクトの実現で、町総合計画に明記しているまちづくりが大きく前進することを願っています。  
なお、スマートICの名称は、国土交通省から「原則として当該SA・PAの名称を用い、かつスマートインター

これまでの歩み  
IC新設要望活動は、昭和50年代の旧秦庄町時代から始まり、平成15年10月には近隣1市7町で(仮称)湖東三山IC建設促進期成同盟会を組織し、地域を挙げた取り組みへと発展しました。  
平成16年4月には、既存PA・SAやバスストップに一般道から直接乗り入れるETC車載器専用スマートICの整備手法が取り入れられ、従来の本格ICを新設することに比べて安価で整備できることになりました。また完成後の管理面においても人件費が少なく済み、運転資金の削減が図れることからメリットも大きく、現在まで全国各地で数十箇所スマートICが整備されています。  
しかしながら、このスマートICの整備に当たっては、一部国庫補助はあるものの基本的には県と地元市町がその整備費を負担する必要があります。また、開通後「社会実験」として、一定期間の利用車種や台数、利用料金等の徴収実績により、利用計画と大幅な差異があったり、収支が

このことから、地区協議会でも協議を進め、遅くとも開通予定の1年前までには正式名称を決定したいと考えています。  
政策調整室(愛知川庁舎)  
42-17684

チエンジを用いた名称を原案とされたい」と示されていることから、「秦庄スマートIC」として実施計画書に記載しています。  
しかし、従来から近隣市町間では「湖東三山スマートIC」としてともに設置運動を展開してきた経過や、現協議会の名称も(仮称)湖東三山スマートIC地区協議会としており、「湖東三山」という名称は広く地域でも認知されています。  
このことから、地区協議会でも協議を進め、遅くとも開通予定の1年前までには正式名称を決定したいと考えています。  
政策調整室(愛知川庁舎)  
42-17684



▲現在の秦庄PAの様子

伴わないと見込まれる場合、一部のスマートICが閉鎖されることもありました。  
今年1月、スマートIC高速道路利便増進事業制度実施要綱が国土交通省から示され、従来の社会実験の手続きは不要となり、国庫補助事業での整備が可能となりました。このことから、社会実験の手法では、町としても一定の整備費負担が必要とされていましたが、そうした負担は基本的に必要でなくなりました。町はアクセス道の施工にともなう町道松尾寺野瀬線の付け替え工事を、先行して今年度を実施する予定です。  
これを受け滋賀県は3月、スマートICにかかる名神高速道路秦庄PA上下線から国道307号までのアクセス道計画や、概算工事費、整備費用の分担内訳、さらには管理運営形態や整備効果を記載した「実施計画書」を日本高速道路保有・債務返済機構(機構)と中日本高速道路(株)に提出しました。その後、国土交通省に「連結許可申請書」を提出し、同省から連結許可が下り次第、今年度から事業に着手する見込みです。